

綾部市は京都府北部に位置しています。ゲンゼの発祥の地としても知られ、昔から絹織物が有名で、繊維・機械産業で栄えてきた地域です。人口減少や過疎化が進む中で、今年に入って人口は3万人を下回りました。また、高齢化率も39.0%（令和2年）に達しています。医・食・住に関わる交流や支援は、地域における重要な課題のひとつとなっています。

西八田地区は6つの町で構成され、人口は約1500人の小学校区です。ここでは、コミュニティナース等が健康交流のサポートを担っていますが、今後は住民主体で継続的に協働して取り組むコミュニティの構築が必要となっています。また、地域における認知症やうつ病、運動不足等による様々な疾患の背景には、社会的孤立が存在していることが多く、医療や介護保険等の制度の枠組みだけでなく、地域とのつながりによって支援できる「社会的処方」の仕組みが求められています。この仕組みを実現するには、日常的な交流や文化活動、趣味や学びを共有できる場が不可欠です。ところが、令和元年以降、コロナ禍により地域コミュニティのあり方は大きく変わりました。地域の祭りやイベント等が中止され、直接的な地域のつながりやコミュニケーションを図ることが難しくなりました。その一方で、オンラインという新しいつながり方が確立しました。しかし、オンラインを日常的に活用しない高齢者にとっては、不便さや生きにくさが助長され、さらに社会的孤立が増大することが危惧されました。

「にしゃたキラキラ情報局」は、30代～40代の西八田

まちむら発見②

地域の情報発信により多世代住民を繋ぐ

京都府綾部市 にしゃたキラキラ情報局

地区の在住・在勤、出身者12名で構成される任意団体として、令和2年10月にボランティア事業を開始しました。事業内容は、西八田地区の既存のメール配信サービスを活用し、情報発信を通じて西八田地区の子どもから高齢者まで多世代がつながれる仕組みを提案することでした。メール配信サービスは西八田地区の自治会が管理しており、毎日、地域のイベント情報やお悔やみ情報等が配信されています。子どもから高齢者まで幅広く認知される地域の情報ツールとして多くの世帯が活用しています。

この既存の地域資源を活用し、地域住民一人ひとりに焦点を当てた特技・趣味の紹介や医療福祉の情報、消防団や高齢者サロン、学校行事の紹介等を動画（YouTube）に編集し、月2本程度、地域に向けて配信しています。動画は西八田地区で生活している住民や地区で活動している人が主体となり、取材や撮影、動画編集は情報局のメンバーが行っています。大切なポイントは、メール配信サービスにYouTubeのUR



にしゃたキラキラさろんの風景

しリンクを貼り付け、誰でも簡単に視聴できるようにしていることです。高齢者等のオンラインを活用しない世代の動向を把握しながら、地域課題に対する住民の新たな共助の意識を芽生えさせることを目標としています。

情報局の動画配信により、様々な反響や波及効果がありました。1つは地域の子どもたちが学校で話題にしていることです。確かにテレビは見なくてもYouTubeは毎日見ている子どもは多いと聞きます。子どもから親へ、親から祖父母へという流れで動画が波及しています。今後、動画を通して子どもたちが様々な地域資源を知り、地域に関わっていかうとするシビックプライドが生まれることを期待しています。

2つ目は、1500人程の小さな地域でも、いろいろな活動や特技、趣味を持った人に出会えることです。どんなに小さな活動であっても、個に焦点を当てていくと新たな地域の可能性を導き出せることを確信できました。情報局の活動によって地域の点が線になり、円(縁)になることを期待しています。また、撮影依頼をする多くの地域住民が趣旨に賛同して出演してくれるのは、事業への興味や期待の表れだと理解しています。

3つ目は、30代〜40代の次世代リーダーの活躍の場の提供につながっていることです。動画制作を通して地域資源が見える化されることで地域特性の理解につながり、地域の魅力を再認識し、より住みやすさの追求につながる機会となっています。

今年に入り、高齢化により運営が困難になった高齢



にしやたキラキラ夏祭りの風景



しめ縄づくりの撮影

者サロンを新たに「にしやたキラキラさろん」と名称を変え、協働事業として運営しています。子どもから高齢者までが集える参加型の交流イベントを毎月2回開催しています。また、8月には伝統舞踊の「綾部踊り」を後世に伝えていきたいとの願いから、夏祭りを開催しました。事前に保存会の住民の方にレクチャーを受けた動画を配信し、注目を喚起しました。当日は200人以上の老若男女が賑やかに踊る光景が広がり、圧巻でした。

地域の文化や伝統は未来を創造し、可能性を動かし、地域を活気づける力になります。また、未来の新しい技術や価値観が文化や伝統を再解釈し、さらに価値を高めます。そうした相互作用の中で、人と人とのつながりを深め、地域コミュニティの強化につながります。

今後は地域のあり方を検証しながら、時代に即した共助の関係性を生み出すために、YouTubeという一方向の情報発信を継続しつつ、双方向のつながりを構築するために「受け取るコンテンツ」から「一緒につくるコンテンツ」へと発展させていきます。また、地域住民に加えて、移住者、近隣の工業団地で働く外国人技能実習生、遠方に暮らす出身者や移住希望者等、西八田に関わる幅広い人々とつながっていきたいと考えています。活動開始からまもなく5年を迎えますが、これからも情報発信を通じて、人と人とのつながり、誰もが安心して暮らせる西八田をもに育んでいきます。

(にしやたキラキラ情報局 田中良樹)